

総合講演・報告 2

グローバル原子力人材育成ネットワークによる戦略的原子力教育モデル事業

Strategic Nuclear Education Model Program by Global Educational Network for Nuclear Human
Resources Development

(2) 第1分科会「国際原子力基礎教育TVセミナー」の成果

(2) 1st Subcommittee: Results of Nuclear Fundamental International TV Seminar

*西村 章

東工大

1. はじめに 第1分科会では、これまでに構築したTV遠隔システムを活用し、原子力の次世代の人材を広い分野から確保することを目的に、原子力に関心があるが、原子力教育を受けたことのない国内外の優秀な学生（他専攻、他学科、高専）等を主な対象（原子力分野の学生も参加可）とした原子力及び放射線に関する基礎教育（「原子力道場」TVセミナー）に関する企画・運営を行ってきた。フェーズ3では、これまでに合計3回の国内向けTVセミナーと8回の国外向けTVセミナーを開催した。

2. 実施内容および成果 これまでに構築した国内向けTV遠隔システムに加え、平成28年度からは国外向けにも拡大し、原子力関係以外の分野を学ぶ学生も含め、原子力への関心を高めるための原子力基礎教育のTVセミナー（「原子力道場」）を実施した。大学連合参加大学は平成28年度より18大学に、平成30年度には19大学に拡大したが、これらの大学向けに平成28年度は、「原子力の基礎と応用」として九州大学、茨城大学、大阪大学、東京工業大学から順次講義配信した。フェーズ3としての平成29年度は「東京電力福島原子力発電所事故の教訓」（東京工業大学）、「放射性廃棄物の管理」（名古屋大学）として4コマの講義を配信した。また、国外向けとしては、時差の関係があり、1コマ/1日ずつタイのチュラロンコン大学とマレーシア国民大学に同時配信し、平成28年度は、「中性子と原子核反応の基礎」（福井大学）、「原子燃料サイクルと放射性廃棄物」（九州大学）、「革新的原子炉」（東京都市大学）、「福島第一原子力発電所事故の教訓」（岡山大学）、平成29年度は、「人に優しい放射線医療」（大阪大学）、「原子力セキュリティの基礎」（東京工業大学）、「核燃料サイクルのバックエンド紹介」（名古屋大学）、「プルトニウム問題」（東京工業大学）の計8コマの講義配信を実施した。これら国内外のTVセミナーの参加者は累計では、延べ419名に達した。フェーズ1から3のこれまでに国内向けには22回のセミナーを実施し、参加者の延べ人数は2,489名、また、国外向けはフェーズ2から開始し、これまでの13回の参加者が延べ304名となった。

これらのセミナーに参加している学生は必ずしも原子力を専門とする学生ばかりでなく、平均的に2/3は一般の学生である。参加者は原子力に対する非常に高い意識レベルを持っており、受講後のアンケート調査から、講義の有益性については、国内外とも「非常に役に立った」あるいは「有益であった」とした学生が全体の9割を超え、非常に高い評価を得ている。また、受講回数については国内の4割近くがリピータで、自身の興味に応じて継続的に受講していることが確認された。

3. おわりに 平成30年度は、国内向けに4コマずつの講義配信を2回、国外向けに1コマずつの4回のTVセミナーの実施を計画している。国内外とも、福島第1原子力発電所事故による原子力への風当たりの強い中、より安全で安心な原子力のあり方を学びとってもらおうと同時に、国内外の原子力事業の現状を踏まえて、今後の原子力のあり方を前向きに考えてもらえるような学びの場を提供していきたいと考えている。

*Akira Nishimura
Tokyo Tech.